通夜のおつとめで、心掛けていること

新潟県第四宗務所布教師会春季研修会　令和六年五月三十日

■通夜葬儀法事で心掛けていること

一、遺族の心に寄り添う。

二、亡き人を仏として高めていく

三、亡き人の教え願いを受け止め、亡き人を心の支えとして共に仏道を歩んでいく。

四、法話は作る物でなく、その都度、亡き人の生前を思い浮かべ、生み出すもの。決して同じ法話はない。

五、遺族に「仏心＝菩提心」を持っていただけるように導く。特に仏法に馴染みのない若い人たちへ。

六、具体的な実践行へ、導いていく。決して見返りを求めない。

■告げに来られた際、枕経に上がった折

通夜で故人の話をする為、　よく故人の人となりをお聞きすること。聞き取りが大切。

■通夜の前に

①通夜の最初に授戒をする。

➿故人になぜ、そのような戒名をお付けしたかをお話しする。その中に、故人の生き方が入り、仏法に照らされた生き方に結び付けられるのがベスト。

私自身とその方との思い出・体験談を法に照らして話す。

②嘆佛：仏の徳を褒めたたえる

「南無三世諸仏」を一緒にお唱え頂き、合掌礼拝を促す

➿故人を思い、共に行ずる。私は、五体投地のお拝をする。

■通夜の読経後

③血脈の説明　私は釈尊の八九番目の弟子→故人は九十番目の弟子

別格の釈尊を含めて、九十一人が教えの輪で繋がった。

④南無三世諸仏

「右ほとけ　左われぞと合わす手の　中ぞゆかしき　南無の一声」

⑤亡き人を生きる人の導き手として受け止めていく

➿「生きている人間が、死んだ人に色々尽くすけれども、限りのあることだ。死んだ人が生きている人を思ってくれている気持ちというものは、計り知れないものがある。」　武者小路実篤

➿世尊の二十年の遺恩　典座教訓

釈尊は寿命が百年あったがこれを自らの意志で二十年縮めて八十歳で亡くなり、その二十年分の福徳を後世の人達に残してくれたという。

➿承陽殿(大本山永平寺)　道元禅師から五代尊までの御尊像、七十九世までの位牌を安置

不審(ふしん)：おはようございます

珍重(ちんちょう)：おやすみなさい

「如在(にょざい)」　在(いますが)如く、在(ましま)すが如く

心に深く念ずることができれば、いつも高祖様は私たちの心の中で生きておられる。

敬慕・追慕の気持ちが大事

⑥通夜・逮夜の意味　明日に及ぶ　故人を敬慕し、思い出を語り合う。

東龍寺住職　渡邊宣昭　合掌